ChatGPT

国産生成AI「Sarashinaサービス」無償ベータ版の技術・法務・知財業務適用調査

調査基準日：2026年10月14日
本報告は、SB Intuitionsの2026年10月13日付公式プレスリリースを出発点に、Sarashinaサービス利用規約、APIドキュメント、プライバシーポリシー、Sarashina3シリーズの公式技術ブログ、政府のAI・著作権関連資料、および競合各社の一次情報を優先して整理したものである。公開一次情報で確認できない事項は「**未記載**」または「**未検証**」と明示する。なお、本調査で確認できた公開一次情報の範囲では、独立した「Sarashinaサービス公式FAQ」ページは確認できなかった。

エグゼクティブサマリー

Sarashinaサービスの無償ベータ版は、2026年10月13日に公開されたクラウド型のWeb/APIサービスであり、文章生成用の`Sarashina3 mini`、高速処理向け`nano`、検索用`embedding`、検索精度向上用`rerank`、安全性判定用`guard`、日英翻訳用`translate`の6モデルを一つのAPI環境で利用できる。Webチャットでは対話、Web検索、文章作成、日英・英日翻訳も提供される。利用料は無料で、終了時期は未定である。 [1]

技術面では、知財業務との相性が良い部品が揃っている。 特に、Sarashina3 embeddingはJMTEB平均78.22、Retrieval 79.30、Sarashina3 rerankはJMTEB系リランキング5タスク平均93.08を公表しており、日本語の検索・RAG基盤として有望である。mini/nanoも日本語対話、日本文化QA、指示追従、ツール利用など8種類のベンチマークで評価され、日本文化・社会常識QAのJamC-QAで比較モデルを上回ったとSB Intuitionsは報告している。ただし、これらは**特許・法務専用ベンチマークではなく、知財実務における再現率・法的正確性は公開されていない。** [2]

一方、**現行の無償ベータを、未公開発明、顧客案件、契約書、侵害鑑定、クレーム作成などの本番知財業務にそのまま投入することは推奨できない。** 最大の理由は、無償プランでは入力・出力データをモデル学習や新規サービス開発等に利用でき、有償プランに用意される学習オプトアウトが無償プランにはないことである。さらに、規約上、個人情報の入力が禁止され、「医学、法律、金融その他の専門分野に関する助言」として回答を利用することも禁止されている。第三者の著作物その他の知的財産権対象情報の入力を禁じる条項も広い文言になっており、公開特許全文、判例、他社契約書等の投入可否は、実運用前にSB Intuitionsから書面で解釈を得るべきである。 [3]

また、利用規約では第三者権利を除き入力・出力に関する知財権を契約者または正当な権利者に帰属・留保するとしている一方、利用者はSB Intuitionsに対し、学習・新規サービス開発等の範囲で入力・出力を無償かつ無制限に利用する権利を付与する。学習済みデータについては原則として遡及的な削除義務もない。この点は、秘密情報を扱う知財部門には特に重要である。 [3]

本報告の総合判断は次の通りである。

導入対象	判断	理由
合成データ・自社権利保有データによる技術PoC	**推奨**	無料、6モデル統合、日本語検索/RAG性能が有望

導入対象	判断	理由
公開情報を使った検索・分類実験	**条件付き推奨**	第三者知財情報の入力条項を事前確認する必要
公開済み文書の日英翻訳補助	**条件付き推奨**	自然さは強いが、特許翻訳で必要な逐語的忠実性は要検証
未公開発明・出願前明細書の投入	**現行ベータでは非推奨**	無償版は学習オプトアウト不可、保持・削除条件も不十分
クレームドラフティング・侵害判断・意見書の法的結論	**本番利用不可と評価**	法律等の専門助言としての利用禁止、法務特化精度未検証
顧客契約書・個人情報を含む書類	**不可**	個人情報入力禁止。第三者権利・秘密情報にも追加リスク
外部顧客向けAIサービスへの組込み	**事前承諾取得まで不可**	再許諾にはSB Intuitions所定手続による事前同意が必要

したがって、**短期は「非機密・非個人情報・権利処理済みデータ限定のPoC」にGO、中期は有償プランの学習オプトアウト、保持期間、セキュリティ、規約解釈を確認した上で条件付きGO、長期の本番知財基盤化はエンタープライズ向けデータ保護条件が整うことを前提**とするのが妥当である。 [4]

サービス概要と技術基盤

Sarashinaサービスは、規約上「基盤モデルSarashinaのAPIサービス及びChatサービス」と定義されている。無償ベータは日本国内居住者または日本国内に本店を有する法人に限定され、Googleアカウントによるソーシャルログインで、事前申込みなしに利用できる。APIは自社システム・サービスへのAI実装と技術検証を目的として明示的に案内されている。 [4]

提供形態は現時点ではクラウド上のWeb/APIであり、Sarashinaサービス無償ベータ自体についてオンプレミス提供は公開資料に未記載である。SB Intuitions/SBグループには別系統の商用クラウド提供も存在するが、無償ベータの契約条件と同一視すべきではない。

モデル構成

モデル	主用途	公開されている技術情報	API上限等	知財業務との主な接点
Sarashina3 mini	文章生成、対話	フルスクラッチ開発のInstructモデル。thinkingなし。**パラメータ数・Dense/MoE等の詳細アーキテクチャは未記載**	コンテキスト128Kトークン、チャット出力上限8,000トークン。6 RPM	要約、検索結果整理、構成要件抽出、草案生成
Sarashina3 nano	大量・高速の単純処理	mini同様、thinkingなし。**パラメータ数は未記載**	128K、60 RPM	大量分類、タグ付け、一次スクリーニング

モデル	主用途	公開されている技術情報	API上限等	知財業務との主な接点
Sarashina3 embedding	ベクトル検索、RAG	1,536次元。MRLにより次元削減可能。**パラメータ数は未記載**	1入力/リクエスト、最大8,000トークン、60 RPM	特許・技術文書の意味検索候補
Sarashina3 rerank	候補文書の再順位付け	`ModernBERT-Ja-1.4B`ベース。Cross Encoder。カスタム指示対応	APIではクエリ＋文書8,000トークン以内、最大20候補/回、60 RPM	先行技術・契約条項・社内文書検索の精密化
Sarashina3 guard	入出力の安全性判定	Sarashina系安全分類モデル。**パラメータ数は未記載**	64K、6 RPM	情報漏洩・虚偽・専門分野誤情報等の補助検知
Sarashina3 translate	日英・英日翻訳	日英特化翻訳モデル。合成対訳＋自己蒸留＋SFT/DPO	最大5,000文字、6 RPM	公開特許・技術資料等の翻訳補助

APIドキュメントではmini/nanoの128K、guardの64K、embedding/rerankの8,000トークン、translateの5,000文字という上限が示され、モデル別レート制限も公開されている。チャットAPIではsystem/user/assistant/toolロール、ストリーミング、function calling、JSON/JSON Schema形式の構造化出力等を利用できる。 5
rerankについては技術ブログ上のモデル設計値は8,192トークンである一方、現行API仕様は8,000トークンとして扱うのが安全である。 6

mini/nanoの学習では、日本語・英語を中心とする約30兆トークンを用い、品質フィルタリング、合成データ、カリキュラム学習、複数段階の強化学習などを組み合わせたとSB Intuitionsは説明している。一方、**事前学習データの個別ソース一覧、著作物別のライセンス構成、国別比率、学習コーパスの完全な出所は未記載**であり、第三者がその権利クリアランスを独立検証できる情報は公開されていない。 7

Sarashina3 translateは、Sarashinaの高品質な事前学習コーパスから選んだ文章を汎用LLMで翻訳して合成対訳を作成し、フィルタリング、独自訳質評価による自己蒸留、SFTとDPOを用いている。したがって、一般的な自然文翻訳への最適化が強い一方、特許クレーム特有の「可能な限り意味を変えず、語を一貫させ、曖昧性を勝手に解消しない」翻訳とは評価軸が完全には一致しない。 8

利用条件とデータ取扱い

無償ベータの実務上重要な条件は次のとおりである。

項目	現時点の条件
料金	**無料**。終了時期は**未定**。 1
対象	日本国内居住個人、日本国内に本店を持つ法人。 3
商用利用	商用利用を一律禁止する条文は確認できない。ただし第三者向け製品・サービスとして再許諾する場合はSB Intuitionsの**事前同意が必要**。 3

項目	現時点の条件
入出力の学習利用	有償・無償を問わず、サービス提供、維持、法令遵守、モデル学習、新規サービス開発等に利用可能。**無償版は学習オプトアウト不可**。 [3]
有償プランのオプトアウト	有償プランのみ将来分について可能。設定前に学習済みのデータやモデルパラメータを遡及削除する義務なし。 [3]
通常の保存期間	**具体的な日数は未記載**。
解約時	アカウント・入力・出力・APIキーを可及的速やかに削除すると規定。ただし学習結果等の遡及削除義務はない。 [3]
個人情報	特定個人を識別できる情報の入力を禁止。契約書、人事文書等では重大制約。 [3]
第三者知財	第三者の著作物その他知的財産権対象情報について禁止行為条項が広く記載されている一方、データ利用条項では「第三者書籍全文等、法令違反・権利侵害となるもの」とも表現される。**公開特許等への適用範囲は要確認**。 [3]
法務等の専門業務	「医学、法律、金融、又はその他の専門分野に関する助言として本サービスの回答を利用」する行為を禁止。 [3]
SLA・稼働率保証	**未記載**。
データレジデンシー	Sarashinaサービス固有の保存国・処理リージョンは**未記載**。
無償ベータの損害責任	規約上、無料プランに対する事業者責任は非常に限定的で、精度・完全性・用途適合性・非侵害も保証されない。 [9]

規約にはAPIを自社システムに組み込む前提がある一方、禁止行為には「コンピュータ・プログラム等を用いて自動的に出力データを引き出す行為」という広い表現も存在する。プレスリリースがAPI自動連携を明確に想定していることから、通常のAPI利用そのものを禁止する趣旨とは考えにくいが、**大量自動処理、バッチ出力、エージェント実行の適法な範囲は規約文だけでは一義的ではない**。本番導入時にはこの点も書面確認すべきである。 [4]

技術的特徴・性能・セキュリティ

Sarashina3シリーズの最大の特徴は、「単一チャットLLM」ではなく、生成・高速処理・検索・再順位付け・安全判定・翻訳というRAG/業務AIの主要構成要素を同一ブランド/API環境で揃えている点にある。知財用途では、単にminiへ質問するより、**embedding → 候補検索 → rerank → miniによる根拠付き整理 → guard/ルール検査**という組合せに価値がある。 [10]

技術領域	公開評価	知財実務上の評価
生成・日本語理解	mini/nanoを日本語対話、日本文化QA、数学、コード、指示追従、ツール呼出し、エージェント、安全性の8ベンチマークで評価。miniはSarashina2から全般に向上し、JamC-QAで比較モデルを上回ったと報告。 [11]	日本語の要約・整理・表形式化には期待できる。一方、特許法・審査基準・クレーム解釈専用評価は**未実施・未公表**。

技術領域	公開評価	知財実務上の評価
複雑推論	mini/nanoはthinkingを持たないモデル。SB Intuitions自身のJ-MultiChallenge分析でもthinkingが有効で、開発中thinkingモデルでは改善が見られた。 [12]	多段階の侵害論、進歩性、均等論、禁反言等を自律的に判断させる用途には弱点。
embedding	JMTEB平均78.22、Retrieval 79.30、Reranking 88.40。256次元に圧縮しても75.72。 [13]	日本語技術文書検索の候補生成として有望。ただし特許検索Recall@kは**未記載**。
rerank	JMTEB系5タスク平均93.08。既存SOTA級ruri-v3-reranker-310mの93.56と同水準。CUSTOMIZE指示対応。SB Intuitions自身も、公開ベンチが実務ドメインを十分反映しないため個別評価が必要と明記。 [14]	先行技術候補100〜200件を上位20件程度へ圧縮する用途は有望。スコアを「特許性90%」等と解釈してはいけない。
翻訳	WMT2024 997文でGoogle翻訳にLLMペアワイズ評価では英日37.7%勝/32.6%負、日英34.3%勝/29.9%負。COMET・GEMBA-MQMではGoogleに近い一方、BLEU/chrFはGoogleより低い。人手評価では英日はSarashina優勢、日英はGoogleが僅差優勢。 [8]	自然さ、文体、ニュアンスに強み。一方、特許翻訳では「意訳の上手さ」がクレーム範囲の変化につながり得るため、用語集・セグメント照合・人手校正必須。
guard	PII漏洩、組織情報漏洩、違法行為支援、専門分野の誤情報、虚偽情報等を含むカテゴリを対象。内部評価で入力F1 71.2、出力F1 65.0、平均68.1と報告。 [15]	補助フィルタには有用だが、F1水準からみても「guardを通った＝安全」ではない。社内DLP等との多層化が必要。

法務・特許分野での強みと弱み

強みは、**日本語そのものの品質、意味検索、指示付きrerank、自然な日英翻訳、構造化出力**である。例えばrerankでは「法務担当者向けの文書を優先してください」といった独自指示を与えられることが公式に例示されているため、「請求項の特定構成要件を具体的に開示する文献を優先」といった知財向けランキング規則に展開しやすい。 [16]

弱みは、第一に**特許・法務専用学習・評価が公開されていない**こと、第二にmini/nanoがthinkingモデルではないこと、第三にサービス規約自身が法律等の専門助言としての利用を禁止していることである。したがって「法律家の代替」より、「検索候補生成」「証拠箇所抽出」「形式変換」「比較表作成」のような**証拠ベースの補助作業**に絞るのが適切である。 [17]

説明性と制御性

APIはsystemメッセージ、temperature/top_p、最大出力長、function/tool calling、JSON Object、JSON Schemaによる構造化出力等に対応しており、出力フォーマットの制御性は高い。これにより、例えば「文献番号」「該当段落」「構成要件」「一致/不一致/不明」「根拠引用」の固定スキーマで返させることができる。 [18]

ただし、**logprobsはサポートされず、生成文のトークン確率を用いたネイティブな信頼度評価はできない**。またrerankの0〜1のスコアも校正済み確率ではなく、絶対閾値として使うべきではないとAPIドキュメントが注意している。したがって「0.95だから95%正しい」といった運用は禁止すべきである。 [19]

LLMに「判断理由」を文章化させることはできるが、その理由が内部計算を忠実に説明している保証はない。知財用途で必要な説明責任は、モデルの自己説明ではなく、**原文引用、段落番号、公開番号、請求項番号等の外部証拠へのトレーサビリティ**によって確保すべきである。

セキュリティ

SB Intuitionsのプライバシーポリシーは、組織的・人的・物理的・技術的な安全管理措置を実施し、個人データを扱える担当者・データベースを制限するアクセス制御、不正アクセスからシステムを保護する措置等を掲げている。また委託先管理も規定する。 [20]

一方、Sarashinaサービス固有のエンタープライズセキュリティ仕様については公開情報が少ない。

セキュリティ項目	確認結果
API認証	Bearer API Key。キーは秘密として扱い、クライアント側へ露出させずサーバ側で管理するようAPI文書が案内。 [21]
Webログイン	Googleアカウント。 [1]
通信	APIエンドポイントはHTTPS。ただし暗号スイート等の契約上の保証は**未記載**。 [21]
保存データの暗号化方式	**未記載**。AES-256等の具体方式は確認できない。
顧客別テナント分離	**未記載**。
SAML/OIDC企業SSO	**未記載**。
RBAC・権限別APIキー	**未記載**。
管理者監査ログ	**未記載**。
データ処理・保存リージョン	Sarashinaサービス固有情報としては**未記載**。
SOC 2 / ISO 27001等のサービス固有認証	**未記載**。
SLA・障害時通知期限	**未記載**。
Zero Data Retention	**未提供・未記載**。むしろ無償版は学習利用あり。
学習オプトアウト	無償版不可。有償版のみ将来分について可能。 [3]

したがって、SB Intuitionsが一般的な安全管理措置を掲げていることと、**Sarashina無償ベータが企業秘密を扱うために必要なエンタープライズ保証を契約上備えていることは別問題**である。

知財業務別適用評価

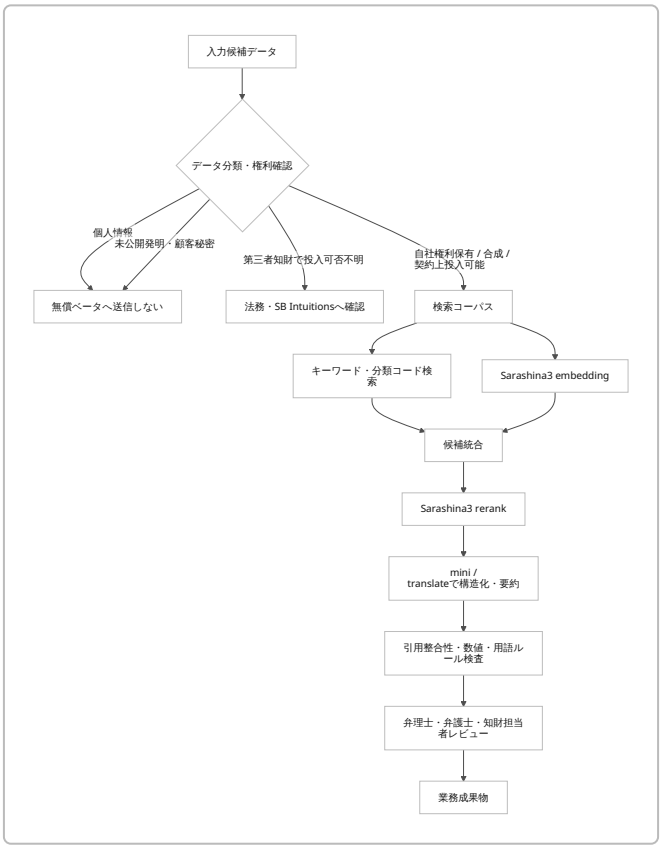
公開一次情報には、特許、商標、意匠、契約審査を対象としたSarashina固有の精度ベンチマークがない。そのため以下の「信頼度」は実測正答率ではなく、公開された一般性能、モデル構造、規約制約、各業務の失敗時影響を踏まえた**本報告上の運用信頼度**である。数値精度を装うことは避ける。

業務	具体的ユースケースと期待効果	推奨ワークフロー	想定精度・信頼度	現行ベータ評価
特許調査・技術ランドスケープ	発明テーマを技術概念に分解、同義語生成、候補文献のクラスタリング、要約。検索式作成時間を短縮	権利確認済みコーパス→embedding/キーワード併用→rerank→miniで証拠付き要約	検索補助は**中〜高**。網羅性は外部DB次第。特許固有精度は**未検証**	**条件付き推奨**
先行技術検索・新規性/進歩性調査	請求項を構成要件に分け、候補文献のどこに各要件があるかマッピング	人間が検索母集団を確保→rerank→miniでelement-by-element chart→弁理士レビュー	文献順位付けは**中**、新規性・進歩性の法的結論は**低**	検索補助のみ推奨
明細書作成	公開済み・架空案件で背景技術、実施形態の文章構造、用語統一	発明者原稿→構造化→草案→人手確認	文章生成は**中〜高**、権利範囲の妥当性は**低**	**実案件の未公開発明は非推奨**
特許翻訳	日英・英日の初稿、対訳表、用語候補	用語集固定→translate→文単位アラインメント→原文照合→専門翻 translator/弁理士確認	一般翻訳は**中〜高**、クレーム忠実性は**中以下・未検証**	公開・許諾済み文書のみ条件付き
クレームドラフティング	架空/公開事例で独立項と従属項の表現候補を生成	法的判断をさせず、複数表現案のみ→弁理士が全面再構成	**低**。法的効果をモデル任せにできない	**本番用途非推奨**
意匠調査	テキスト記載の特徴抽出や分類	文字情報のみ補助。画像類似検索は別モデル	**低**。6モデルに視覚検索モデルは公開されていない	画像意匠検索には不適
商標調査	称呼・概念・指定商品サービスのテキスト整理、類似候補の語彙展開	公的/契約済みDB→候補取得→テキストrerank→専門家判断	テキスト候補整理は**中**、法的類否判断は**低**	補助のみ
侵害分析/FTO	Claim chartの機械的下書き、製品仕様と要件の対応箇所抽出	法的結論をAIに出させず、証拠抽出だけ→弁護士・弁理士判断	抽出**中**、侵害結論**低**	**実質的な法的判断には不適**
拒絶理由通知・意見書作成	引用文献、審査官指摘、対応請求項の整理、論点表の作成	OCR/原文→事実抽出→論点整理→専門家が意見書を起案	事実整理**中〜高**、法的反論**低**	整理用途のみ
契約書レビュー	自社テンプレートの条項抽出、条番号比較、抜けの検出	自社権利保有・非個人情報テンプレ→JSON抽出→ルールベース差分	機械的抽出**中〜高**、リスク評価**低**	顧客契約・個人情報入りは不可

この評価の背景には、Sarashina3の検索系性能が良好である一方、SB Intuitions自身がrerankの公開ベンチについて「実運用の対象ドメインで評価すべき」と明記していること、mini/nanoがthinkingを持たないこと、そして利用規約の専門助言禁止条項がある。 22

推奨ワークフロー

知財業務では、Sarashinaを「答えを知っているAI」ではなく、**証拠集合を絞り込み構造化するコンポーネント**として配置するのが安全である。



Sarashina3 embedding/rerankは特許データベースそのものではない。J-PlatPatや商用特許DBなどで検索母集団を確保し、その後段に意味検索・rerankingを置くべきであり、Webチャットの一般Web検索だけを先行技術調査の母集団とすることは適切ではない。

プロンプト設計例

先行技術の構成要件マッピング

```
SYSTEM:
あなたは特許調査の「証拠抽出補助」です。
特許性、新規性、進歩性、侵害の法的結論は出さないでください。
与えられた文書に明示されていない内容を推測してはいけません。
根拠がない場合は必ず「不明」としてください。

TASK:
請求項を最小の技術的構成要件に分解してください。
各候補文献について、各構成要件を明示している箇所だけを対応付けてください。

OUTPUT:
{
  "elements": [
```

```
    {
      "id": "A",
      "claim_text": "...",
      "documents": [
        {
          "document_id": "...",
          "status": "明示|部分的|不明",
          "evidence": "原文引用",
          "location": "段落番号等"
        }
      ]
    }
  ]
}

禁止:
- 根拠のない補完
- 「新規性なし」「侵害する」等の法的結論
```

構造化出力はSarashina APIのJSON Schema機能との相性が良い。 [18]

rerankの知財向け指示

```
CUSTOMIZE instruction:
請求項の構成要件を単に同じ単語で含む文献ではなく、
同一の技術的機能・構造・関係を具体的に開示している文献を優先してください。
背景説明や一般論しか記載しない文献は順位を下げてください。
```

rerankはCUSTOMIZE指示を公式にサポートしているため、このように「良い先行技術候補」の基準を明示できる。 [16]

特許翻訳

```
SYSTEM:
一般読者向けの自然な意訳より、特許文書としての意味保存を優先してください。

RULES:
1. 原文にない技術的限定を追加しない。
2. 原文の限定を省略しない。
3. 同一英語用語には原則として同一日本語を使う。
4. provided glossary を最優先する。
5. 曖昧な箇所を勝手に解消せず [AMBIGUOUS] と表示する。
6. 請求項番号、参照符号、否定、数量範囲を維持する。
7. 原文と訳文を文節単位で対応表示する。
```

これは、Sarashina3 translateが一般翻訳で自然な言い換えを得意とするという長所を、特許翻訳では意図的に抑制する設計である。SB Intuitionsの評価でも、Googleは原文忠実性を好む評価者に選ばれやすく、Sarashinaは流暢さ・ニュアンスで評価される傾向が報告されている。 [8]

契約書・意見書の安全な抽出モード

> この文書について法的助言・推奨・有効性判断をしないでください。
> 次の事実だけを抽出してください。
>
> - 条項番号
> - 当事者の義務
> - 期限
> - 金額
> - 解除条件
> - 責任制限の有無
> - 知的財産権に関する記載
> - 元文書の該当引用
>
> 「問題がある」「有利・不利」等の評価語を使わないでください。

これでも、実際の第三者契約書・個人情報入り書類を無償ベータに投入してよいという意味にはならない。データ投入可否を先に確認する必要がある。 [3]

リスク・法務・倫理

最重要リスクは、モデルの精度そのものより**利用規約と知財部門の情報管理要求の不整合**である。

リスク	重要度	一次情報からの評価	実務対応
無償版入力が学習利用される	**極高**	無償・有償双方で入力/出力をモデル学習等に利用可能。有償のみ将来オプトアウト。 [3]	未公開発明、顧客秘密、M&A、ライセンス交渉資料は投入しない
学習済みデータの削除困難	**極高**	オプトアウト前の学習結果やパラメータからの遡及削除義務なし。 [3]	「後で消せる」を前提にしない
個人情報	**極高**	特定個人を識別できる情報の入力が禁止。 [3]	入力前DLP・マスキング。氏名だけでなく連絡先等も除去
第三者知財情報の入力	**高**	禁止条項が広い。別条項では違法・権利侵害データに重点があるため、射程に曖昧さ。 [3]	公開特許・論文・契約書を大量投入する前に書面確認
法律専門助言	**極高**	法律等の専門分野に関する助言として回答を利用する行為を禁止。 [3]	法的結論は人間のみ。AIは証拠抽出・整理へ限定
hallucination	**極高**	正確性、完全性、有用性、用途適合性等を保証しない。 [23]	原文引用必須、unsupported claimを自動拒否
出力の第三者権利侵害	**高**	出力が第三者知財・プライバシー等を侵害しないことを事業者は保証しない。利用者に公開前確認義務。 [9]	類似性検索、人手レビュー、出典確認

リスク	重要度	一次情報からの評価	実務対応
自動API利用の規約解釈	**中〜高**	API組込み推奨と「プログラムで自動的に出力を引き出す行為」禁止の文言が併存。 24	大量バッチ/エージェント用途を契約前照会
第三者向けサービス化	**高**	サブライセンスには事前同意が必要。 3	顧客向けSaaSは承認前に提供しない
EU案件	**高**	規約上GDPRやEU AI Act対応を前提としていない旨が記載。 23	EU対象処理には別基盤を検討

生成物の帰属

規約では、適用法令の範囲内で、第三者に権利がある場合を除き、入力・出力データに関する知的財産権は契約者または正当な権利者に帰属・留保される。しかしこれは「AIが生成した文章に必ず著作権が発生する」という意味ではない。日本の著作権法上、AI生成物が著作物となるかは、人による創作意図・創作的寄与等を含む個別判断となる。文化庁もAI生成物について、既存著作物との類似性・依拠性や、人の創作的寄与を考慮する整理を示している。 25

さらにSarashina規約では、利用者がSB Intuitionsに対し、モデル学習、新サービス開発等の目的で入力・出力を無償・無制限に利用する権利を許諾する。このため、契約上「出力は利用者側に帰属する」ことと、「事業者が入力・出力を学習利用できる」ことは両立しており、知財部門は両方を確認する必要がある。 3

学習データ由来の権利問題

mini/nanoについて30兆トークン規模、品質フィルタ、合成データ等は公表されているが、個々の事前学習ソースとライセンス状態の全容は**未記載**である。そのため「全学習データが権利処理済み」と本調査から確認することはできない。 26

文化庁のAIと著作権に関するガイダンスは、AI利用者にも、既存著作物を入力する際の利用目的や、生成物を外部利用する前の既存著作物との類似性確認等を求める方向を示している。特に、社内で生成した段階と、成果物を外部公開・営業利用する段階では著作権上の評価が異なり得る。 27

Sarashinaの場合、著作権法上入力が許される可能性があっても、**サービス利用規約がそれより狭い入力条件を課していれば契約上その条件を守らなければならない**。公開特許、学術論文、他社製品マニュアル等のRAG投入では、「法律上可能か」と「Sarashina規約上可能か」を分けて審査する必要がある。

機密情報

規約には相互の秘密保持条項があるが、同時に入力・出力をモデル学習等に利用できる条項が置かれているため、**秘密保持条項だけを見て「機密情報を安全に入力できる」と判断すべきではない**。学習利用は規約上明示的に許諾される別の処理である。 3

特に出願前発明、発明届、研究データ、拒絶対応戦略、ライセンス交渉条件、侵害調査結果、顧客秘密等については、現行無償ベータへの投入を禁止する社内ルールが妥当である。これらを第三者AIへ提供した場合の営業秘密性、守秘義務、特許法上の公知性等への具体的法的効果は案件ごとに異なるため、個別の専門家判断が必要である。

hallucination対策

知財用途では、単に「より良いプロンプトを書く」だけでは不十分である。推奨する安全策は、**モデル外の証拠を正解源とすること**である。

生成結果の各実体的主張には`source_id + paragraph_id + verbatim evidence`を付け、証拠がない主張を自動的にエラーにする。数字、日付、公開番号、請求項番号は正規表現やデータベース照合で再検証する。検索ではkeyword/BM25等とembeddingを併用し、rerank後も一定数の下位候補を人間がサンプリングして「AIが重要先行技術を落としていないか」を監査する。翻訳では原文‐訳文アラインメントと用語一貫性検査を別処理にする。

guardは有用な第2線防御となるが、内部評価で出力F1が65.0であるため、DLP、ルールベース検査、人手審査を置き換えるべきではない。 [15]

導入・運用と競合比較

企業導入時には、経済産業省・総務省の現行「AI事業者ガイドライン」をベースラインに、AI責任者、利用部門、法務・知財、情報セキュリティの責任分界を決めるのが妥当である。2026年には同ガイドラインv1.2が公表されている。 [28]

推奨するデータ分類

区分	例	無償ベータ
A：合成・自社権利保有・非機密	架空の請求項、自社作成評価文、公開用資料	**利用可**
B：公開済みだが第三者権利あり	他社特許、論文、製品資料	**規約解釈確認まで原則保留**
C：社内機密	社内技術報告、未公開製品仕様	**投入禁止を推奨**
D：最高機密/顧客情報/個人情報	発明届、未出願明細書、顧客案件、氏名入り契約書	**投入禁止**。個人情報は規約上も禁止。 [3]

入力時に「A/B/C/D」をシステム側で判定し、C/DをAPI gatewayで技術的にブロックする方が、利用者への教育だけに依存するより安全である。

検証プロセスと評価指標

PoCでは「使った人が便利と感じたか」だけで合否を決めず、知財業務固有のgold setを準備する。以下は**採否判定用に推奨する社内指標であり、Sarashinaの実測値ではない**。

タスク	指標	推奨する考え方
先行技術候補生成	Recall@50 / Recall@100	最重要。上位精度より「重要文献を落とさない」ことを重視
rerank	nDCG@10、MRR	現行検索システムに対する改善量を見る
構成要件抽出	Element-level Recall / Precision	重要要件の見落としを最重視

タスク	指標	推奨する考え方
根拠付き要約	Citation faithfulness	目標例99%以上。根拠なし主張を極小化
hallucination	Unsupported proposition rate	高リスク業務では1%未満を目標にし、最終成果物は人手100%確認
翻訳	Critical omission / addition	重要な脱落・付加は評価セット上0を要求
用語	Terminology consistency	クレーム・明細書内の同一用語一致率
数値・日付	Exact match	公開番号、日付、数値範囲は100%を目標
安全性	PII leakage / confidential-data violation	**0件**が合格条件
運用	latency、429率、review時間	API速度だけでなく人手修正時間まで計測
生産性	minutes/case、修正率	AI導入前のベースラインと比較

検索系は「AIだけの精度」と「最終ワークフロー精度」を分けるべきである。例えばembeddingのRecallが低くてもキーワード検索とのunionで高Recallを得られる可能性があり、逆にrerank単体が高性能でも最初の検索で文献を落とせば回復できない。

ベータの処理量制約

現行APIはmini/guard/translateが6 RPM、nano/embedding/rerankが60 RPMである。embeddingは1リクエスト1テキストであるため、例えば10万チャンクを一度だけ埋め込む場合でも、60 RPMを完全に使えたとして理論上約1,667分、**約27.8時間**を要する。実際には通信、失敗、429、再試行が加わる。したがって無償ベータは大規模特許全文コーパスを初期インデックスする本番基盤より、数千〜数万件規模のPoCに向く。[29]

rerankは最大20候補/リクエストなので、検索エンジンで最初から数十〜数百件まで絞ってから使うべきであり、数百万件をrerankする設計は想定すべきではない。[6]

コスト見積り

無償ベータの**モデルAPI料金は0円**であるが、PoC自体が無コストという意味ではない。[1]

8週間の知財PoCを例に、以下の社内工数を仮定する。

役割	工数仮定
知財責任者 0.2 FTE	64時間
AI/システムエンジニア 0.5 FTE	160時間
法務・セキュリティ 0.1 FTE	32時間
知財レビュアー2名 合計0.2 FTE	64時間
合計	**320時間**

社内総コストを1時間8,000〜15,000円と仮置きすると、PoC人件費は**約256万〜480万円**となる。これは市場価格ではなく意思決定用の仮定であり、特許DB/APIライセンス、開発環境、セキュリティ審査費用は別である。

本番TCOは、ベータ終了後のSarashina料金が**未記載**であるため現時点で合理的に算定できない。さらに、無償版では機密データを使えないため、匿名化・合成データ作成等のPoC特有コストが増える点も考慮すべきである。

競合比較

以下の比較は、各社が異なるベンチマークを用いているため**性能順位を直接示すものではない**。特に特許・法務の共通ベンチマークによるSarashinaとのhead-to-head比較は確認できない。

製品	提供形態・主な特徴	日本語・法務性能の証拠	データ取扱い	ライセンス・商用面	知財部門から見た位置付け
Sarashina サービス / Sarashina3	Web＋API。mini/nano/embedding/rerank/guard/translateを統合。mini/nano 128K。無償ベータ。 30	日本語系8ベンチ、JMTEB embedding 78.22、rerank 93.08。**法務/特許専用評価は未記載**。 2	無償版の入出力は学習利用可能、オプトアウト不可。保持日数未記載。 3	プロプライエタリ利用規約。第三者サービスへの再許諾は事前同意。	日本語RAG PoCに強い。ただし現行無料版は機密知財に不向き
PLaMo 3.0 Prime	APIに加えオンプレミス等の企業導入形態。reasoning/non-reasoning、長文、構造化出力を重視。 31	日本語業務文書、指示追従、安全性を重視。PLaMo 3.0 Primeは256K文脈を掲げる。各評価は主にPFN側公表。 31	契約・提供形態に依存。本調査でSarashinaと同条件の公開データ保持条項までは確認できず	商用のプロプライエタリサービス。オンプレ選択肢が大きな差別化	機密知財ではオンプレが有力。Sarashinaの直接国内競合
NTT tsuzumi 2 系企業サービス	専用環境・オンプレ構成を選べるサービスがあり、業務データやプロンプトを外部AIサービスへ送らない構成を提供。 32	日本語重点の国産LLM。個社・業界特化を重視	専用/オンプレ構成ならデータ主権を取りやすい。 32	企業向け個別契約型	未公開発明等の高機密用途ではSarashina無料版より導入要件に適合しやすい

製品	提供形態・主な特徴	日本語・法務性能の証拠	データ取扱い	ライセンス・商用面	知財部門から見た位置付け
OpenAI GPT-5.5 API	汎用reasoning・エージェント・ツール利用。APIで最大1Mコンテキスト。標準価格は入力$5/100万token、出力$30/100万tokenと公表。[33]	専門知識・複雑推論・長期タスクで高い公表性能。ただしSarashinaと同一知財ベンチでの比較ではない。[33]	Business/APIデータはデフォルトで学習不使用。OpenAIは企業データについてAES-256 at rest、TLS 1.2+ in transit等を公表。[34]	Services Agreementでは顧客がInputの権利を保持しOutputを所有、明示同意なしにCustomer Contentをサービス改善に使わない。[35]	複雑な法務推論・企業統制で優位。ただし国外クラウド等の社内要件を別途評価
Anthropic Claude API / Opus系	汎用reasoning、長文処理、ツール利用。2026年9月時点でOpus 5.5等を展開。[36]	Anthropic公式には、Opus 4.6についてHarveyがBigLaw Bench 90.2%と報告した事例が掲載されている。ただし顧客評価でありSarashinaとの共通試験ではない。[37]	商用APIはデフォルトで入出力をモデル学習に使わず、標準ではAPI入出力を30日以内に削除。承認対象顧客にはZero Data Retentionも提供。[38]	プロプライエタリ商用API。出力権利に関する最新商用規約条文は本調査で一次確認できず	法務系reasoningとデータ統制では有力比較対象

競争上のSarashinaの特徴は「世界最強の汎用reasoningモデル」というより、**日本語に重点を置いた国内開発モデルと、embedding/rerank/guard/translateまで一体提供する日本語AIスタック**にある。一方、知財部門が最も重視する「入力を学習しない」「保持期間が明示される」「オンプレ/専用環境」「組織RBAC・監査」「法務用途を契約上認める」といった条件では、現行の無償ベータより他社商用/エンタープライズ製品の方が明確な場合がある。[39]

本番化前にSB Intuitionsへ確認すべき事項

本番導入審査では、少なくとも以下を**書面回答**で取得することを推奨する。

確認事項	理由
公開特許・公開公報・判例・論文をembedding/rerankへ入力してよいか	規約第10条の第三者知財情報の範囲が広い
APIによる大量自動処理が第10条の「自動的に出力を引き出す行為」に該当しないか	API用途との条文上の整合性確認
知財部門による調査・ドラフト補助が「法律等の専門助言」に当たる範囲	本番利用可否の最重要契約論点
有償プランで学習オプトアウトした場合の**保存期間**	学習拒否とデータ削除は別問題

確認事項	理由
Zero Data Retention相当オプションの有無	未公開発明の利用条件
保存・推論リージョン、再委託先	データレジデンシー
保存時・通信時暗号化、鍵管理	セキュリティ審査
SSO、RBAC、APIキー権限分離、監査ログ	企業内部統制
インシデント通知期限・SLA・バックアップ方針	本番継続性
顧客向け製品への組込み承認プロセス	第16条再許諾対応
有償プラン価格とレート上限	TCO・大規模検索の実現性
モデル更新時のバージョン固定・廃止通知	知財評価結果の再現性

これらが未回答のままでは、技術性能が高くても「知財本番基盤として承認可能」とは判断しにくい。

結論と導入可否判断

Sarashinaサービス無償ベータは、国産・日本語重視の生成AIを知財業務へ応用するための技術検証環境としては非常に興味深い。 文章生成だけでなく、embedding、rerank、guard、translateが同時提供されるため、特許検索RAG、技術文書分類、証拠抽出、翻訳等を一つのAPI系列で試せる。特にembeddingのJMTEB平均78.22、rerankの93.08、日本語文化QAを含むmini/nanoの改善は、一般的な「日本語チャットボット」以上の業務システム構築余地を示している。 [2]

しかし、**知財部門の本番導入を考えた場合、2026年10月14日時点では技術リスクより契約・データガバナンスの方が大きい。** 無償版では入力・出力が学習利用され得てオプトアウトできず、学習済みデータの遡及削除も保証されない。個人情報入力は禁止され、第三者知財情報の入力条項は広く、法律等の専門助言として回答を利用することも禁止される。さらに、サービス固有の保存期間、保存時暗号化、データレジデンシー、企業SSO/RBAC、監査ログ、SLA等は公開情報では確認できない。 [40]

時間軸	推奨判断	実施範囲	次段階へのゲート
短期：現在〜約3か月	**PoCはGO**	合成データ、自社権利保有かつ非機密データ。embedding/rerank、要約、構造化出力、翻訳を評価	特許検索gold set、翻訳テスト、hallucination、安全性の定量評価
中期：約3〜12か月	**条件付きGO**	有償プランの条件が明確になれば、限定的な内部業務へ拡大	学習オプトアウトだけでなく保持期間、暗号化、リージョン、SSO/RBAC、法務用途、公開特許入力の書面確認
長期：約12か月以降	**条件充足時に本番候補**	RAG検索、社内知財ナレッジ、翻訳、ドラフト補助	Zero-retention/専用環境級のデータ保護、SLA、モデルバージョン管理、社内評価基準クリア

最も現実的な短期導入は、**「Sarashinaを弁理士・知財担当者の代わりにする」のではなく、「検索・絞込み・根拠抽出・形式化を高速化する副操縦士にする」**ことである。具体的には、権利処理済み評価コーパス上で `embedding → keyword hybrid search → rerank → mini` による根拠付き構造化 → 人間レビュー を構築する。この用途ならSarashina3シリーズの技術的長所を最大限利用しつつ、法的結論をモデルに委ねるリスクを抑えられる。 [41]

反対に、**無償ベータへ未公開発明、出願前明細書、顧客秘密、個人情報、実際の侵害鑑定資料を投入する運用は現時点では見送るべきである。クレームの法的範囲、特許性、侵害、契約リスク等の最終判断をSarashinaの回答として採用することも避けるべきである。** これは単なる「LLMは間違える」という一般論ではなく、現行Sarashina利用規約のデータ学習条件と専門助言禁止条項から直接導かれる実務上の制約である。 [3]

したがって、2026年10月時点の最終導入判断は、**「技術評価用サンドボックスとして採用：推奨」「機密知財を扱う本番サービスとして採用：現時点では見送り」「将来の有償・エンタープライズ条件が整えば再評価」**が妥当である。Sarashinaが今後、学習オプトアウトに加えて明確な保持期間、専用/閉域環境、企業アクセス制御、SLA、法務・知財用途を許容する契約条件を整備すれば、日本語検索・RAG・翻訳に強い国産AIという特性から、国内企業の知財基盤における有力候補になり得る。

---

[1] [10] [24] [30] 国産生成AI「Sarashina」を利用できる「Sarashinaサービス」の無償ベータ版を提供開始 | プレスリリース | SB Intuitions株式会社
https://www.sbintuitions.co.jp/news/press/20261013_01/

[2] [11] Sarashina3 mini / Sarashina3 nano: フルスクラッチで開発 ...
https://www.sbintuitions.co.jp/blog/entry/2026/06/30/100000?utm_source=chatgpt.com

[3] [4] [9] [23] [25] [39] [40] Sarashina サービス利用規約
https://sarashina.ai/terms

[5] Sarashina API Docs
https://docs.sarashina.ai/

[6] [14] [16] [22] [41] Sarashina3 rerank: 日本語検索に指示付きリランキングを導入 ...
https://www.sbintuitions.co.jp/blog/entry/2026/07/03/100056

[7] [26] Sarashina3 mini / Sarashina3 nano: フルスクラッチで開発した最新の国産LLM - SB Intuitions TECH BLOG
https://www.sbintuitions.co.jp/blog/entry/2026/06/30/100000

[8] Sarashina3 translate: 翻訳品質を追求した日英・英日翻訳モデル
https://www.sbintuitions.co.jp/blog/entry/2026/07/14/100002

[12] [17] J-MultiChallenge：日本語マルチターン対話能力評価 ...
https://www.sbintuitions.co.jp/blog/entry/2026/09/28/110000?utm_source=chatgpt.com

[13] Sarashina3 embedding: 日本語に強い最新のテキスト ...
https://www.sbintuitions.co.jp/blog/entry/2026/07/02/101054?utm_source=chatgpt.com

[15] Sarashina3 guard: 日本語特化ガードレールモデル - SB Intuitions TECH BLOG
https://www.sbintuitions.co.jp/blog/entry/2026/07/01/071349

[18] [19] Chat Completions - Sarashina API Docs
https://docs.sarashina.ai/api-reference/chat-completions

[20] 個人情報保護方針
https://www.sbintuitions.co.jp/privacy-policy/

[21] はじめに - Sarashina API Docs
https://docs.sarashina.ai/introduction

[27] https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/94097701_01.pdf
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/94097701_01.pdf

28 AI事業者ガイドライン
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/20260331_report.html

29 レート制限 – Sarashina API Docs
https://docs.sarashina.ai/rate-limits

31 国産生成AI基盤モデルPLaMo 3.0 Primeを正式リリース
https://www.preferred.jp/news/pr20260622

32 専用環境で利用できる「クローズドAIエージェント」の提供を開始
https://www.ntt.com/about-us/press-releases/news/article/2026/0817.html

33 Introducing GPT-5.5
https://openai.com/index/introducing-gpt-5-5/

34 Enterprise privacy at OpenAI
https://openai.com/enterprise-privacy/

35 OpenAI Services Agreement
https://openai.com/policies/services-agreement/

36 Newsroom
https://www.anthropic.com/news

37 Introducing Claude Opus 4.6
https://www.anthropic.com/news/claude-opus-4-6

38 Is my data used for model training? - Anthropic Privacy Center
https://privacy.anthropic.com/en/articles/7996868-is-my-data-used-for-model-training